

令和6年度 第3回宇城市子ども・子育て会議 議事要旨

1 開催日時 令和7年1月15日(水) 15:00~16:30

2 会場 不知火防災拠点センター 研修室1・2

3 出席委員

出川委員 杉浦委員 小倉委員 前田委員 林田委員 福田委員
末富委員 内田委員 藤田委員 鷲尾委員 川島委員 堤委員 神之田委員

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議事
- (4) 閉会

※宇城市子ども・子育て会議条例第5条第2項により、15名中13名出席(半数以上の出席)のため、この会議は成立する。

【議事】

(1) (仮称)宇城市こども計画 策定進捗報告

① ヒアリング調査から見えてきた課題

事務局より資料に基づき説明

藤田委員:学年が増すほど不登校が増えている理由は、「家庭の経済的な理由」、「親の育児能力」、「生徒の発達障害」によるとの認識でいいのか。

事務局:ヒアリング調査から、主な理由はそうだと認識している。

小倉委員:宇城っ子は基本的に中学校をメインに取り組まれているが、あえて不登校児童という小学生のこどもたちも対象にしているのか。回答したのは、教諭なのか管理職なのか。学校のヒアリングで、内容的に学校現場としては違和感がある回答があったので、これをもって、学校の現状とされれば危険(誤解を与える)という感じがした。コミュニティースクールは全学校で実施しているはず。

事務局:宇城っ子を利用しているこどもの中に小学生も見受けられる。不登校児童・生徒の定義には該当しないが、学校に通学できていないこどもが増えている現状を知りたかったため、不登校以外で学校に行っていない子どもたちという枠組みでヒアリングを行った。

藤田委員:コミュニティースクールになると不登校が減る理由は何か。

事務局:コミュニティースクールが不登校を減らすという事ではないと思うが、今の学校の現状を改善するためには、地域の力が必要と説明を受けた。

内田委員：中学生に不登校が増えるのは自我が出てくる年ごろで、昔からそうだと感じている。このヒアリング調査結果は自分の相談機関の状況と同じだと感じている。

(2) (仮称)宇城市こども計画の素案について
事務局より資料に基づき説明

【成果指標と目標値について】

藤田委員：Ⅰ- (4) 虐待を理由とする再通告件数を減らすことを目標にすることは、虐待通報を妨げるのではないか。

福田委員：Ⅱ- (3) 「発達に支援を必要とする児童が、適切な相談・支援が受けられた」と考える保護者の割合の目標値 90%は、高すぎるのではないか。

杉浦委員：誰が対象になっているのかを再度確認し、現状値が分かるものを使ったほうがいい。

(3) 今後のスケジュールについて

- ① 「成果指標」と「量の見込み」については、24日(金)までに資料を配布し、委員からの意見を伺う。
- ② 2月上旬よりパブリックコメントを3週間ほど行う。
- ③ 3月中旬に、子ども・子育て会議を開催し、計画策定の上承を得る予定。